

ご挨拶

- | | |
|------|--------|
| ①出身地 | ②研究内容 |
| ③趣味 | ④好きな言葉 |



就任のご挨拶

中西 一義 大学院医系科学研究科 保健学分野 生理機能情報科学 教授

- ①広島県 ②脊髄機能の非侵襲的評価、手術中の脊髄機能モニタリングに関する研究、感覚に関連する高次脳機能に関する研究 ③ゴルフ、スポーツの観戦、温泉 ④“Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow. The important thing is not to stop questioning.”

この度、2019年4月1日付けで広島大学大学院医系科学研究科保健学分野生理機能情報科学教授を拝命しました。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。着任に際してご高配いただいた安達伸生教授（整形外科学）にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

私は1994年に日本大学医学部を卒業後、生田義和教授が主催しておられた広島大学医学部整形外科学教室に入局後、広島大学医学部附属病院、広島市民病院、国立療養所広島病院（現東広島医療センター）、中国労災病院、土谷総合病院で整形外科学の臨床的なご指導をいただきました。2002年からは当時整形外科学教授に越智光夫学長が着任されたのと同時に帰局し、臨床では脊椎・脊椎外科を、大学院の研究として超伝導量子干渉素子を用いた神経活動磁界計測についてご指導をいただいております。大学院を卒業してからは、ルンド大学マルメ病院（Lars Dahlin教授）に留学し、末梢神経障害に関連する脳活動について学ぶ機会をいただきました。2016年からは安達伸生教授のご指導のもと、引き続き脊椎・脊椎外科の臨床と並行して、臨床神経生理学研究に携わっております。今後も広島大学の一員として研究に関われることは大変嬉しく、身の引き締まる思いでございます。このような機会を与えてくださった皆様に厚くお礼を申し上げます。新たな環境でまだまだ慣れないことが多いですが、広島大学のさらなる発展に貢献出来るよう精一杯頑張りますので、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



就任のご挨拶（全身の健康はお口から）

宮内 睦美 大学院医系科学研究科 歯学分野 口腔顎顔面病理病態学 教授

- ①鹿児島県 ②慢性歯性感染が全身の健康状態に及ぼす影響 ③絵を描くこと ④継続は力なり

平成31年4月1日付で、高田 隆教授の後任として広島大学大学院医系科学研究科 口腔顎顔面病理病態学教室の教授に着任いたしました宮内睦美と申します。紙面をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は、鹿児島で生まれ育った“薩摩おじょ”です。広島大学歯学部を卒業してから現在に至るまで、広島大学歯学部で研究・教育に携わっております。「慢性歯性感染が全身の健康状態に及ぼす影響」を生涯の研究テーマとしています。歯周病の代表的な原因菌である*Porphyromonas gingivalis* (*P.g.*)の歯性感染マウスモデルを作成し、口腔から感染した*P.g.*が非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)、大動脈の内皮細胞障害、早産のリスク因子であることを実験病理学的に明らかにしました。現在は、医科歯科連携の臨床疫学研究を展開し、*P.g.*の血清抗体価、なかでも*P.g.*-fimA type4が、NASHの線維化進行、早産発症、心房細動の再発などの全身疾患の病態進行のマーカーとなる可能性を示唆しております。今後は、*P.g.*-fimA typeの中でも全身疾患の病態進行に関わる病原性の高い菌種を分離し、その病原因子を解析するとともに、新しい検査方法、新しい治療方法を開発し、全身疾患ハイリスクの患者さんの口腔の健康状態を守ることで疾患の発症や進行を予防できることを切望しております。

皆様のもとに共同研究のお願いにお伺いすることがあると思いますので、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。大好きな広島大学の発展に貢献できるよう頑張っております。